

平木のみんなで 食品ロス『0』をめざそう！！

平木エココミュニティ会議（関係課：美化企画課）

事業費 217,482 円

助成額 217,000 円

●当初の課題・事業目的

現代社会において、毎日何万トンの食品が廃棄されている。一方でコロナ禍において食の困窮者が増加している現状もある。この現状を身近な問題と認識し、個人個人の意識を少しずつでも変えていくことで 食品ロス「0」を地域でめざそうということを目指した。

社会問題になっている「食品ロス」問題を小さい単位の地域で取り組むことにより各個人の意識の改善をはかる。



代表 内田 宏美

●事業概要

- ・フードドライブの箱・案内の作成
- ・食品ロスアプリの説明と案内の作成
- ・ミッションビンゴの作成（こどもたちに向けて）
- ・フードドライブを9月より設置（平木小学校・中学校・あおぞら幼稚園・むつみ児童館）
- ・フードドライブの食品回収と施設へのお届け
- ・エコバッグ&ドギーバッグの作成
- ・食品ロスアプリの集計と分析
- ・協力者への持続のお願いとバッグ配布



●事業の成果・工夫した点

当初、食品ロスアプリを自治会の定例会や理事会などで説明することになっていたが、緊急事態宣言等で行けなかったため、アプリの使い方の手紙を作成し、個人的に協力をしてもらった。平木エコで定例で行っている夏休みのミッションビンゴの項目にも加え子どもたちに意識をもってもらえるように工夫した。

フードドライブの箱の設置を小学校・中学校・あおぞら幼稚園・むつみ児童館の4か所に設置できた。どの場所にも中に食品が入っていたので地域の皆さんの意識の高さが認識できた。

●苦労した点・今後の課題

食品ロスアプリを理解してもらうのに苦労した。ドギーバッグの作成依頼の時に、色々な基準があったので、独自の物を作るのが難しかった。

よりたくさんの人に知ってもらって理解してもらうために集まって説明ができないことが多いので、どのような広報をするかが課題である。

フードドライブの食品の管理が課題となる場合があった。

地域のお店に働きかけてドギーバッグのことを知ってもらえると良いとアドバイスをもらったが、なかなかお店に伺うことができなかった。

●代表者の感想

フードドライブの箱を4か所設置しました。どの箱にも日にちが経つにつれてたくさんの食品が入っていました。少しでも多くの人意識をもって食品ロスについて考えることにつながったのではないかと思います。参加者のコメントの中に、「アプリを登録するのは手間だったけど、捨てる量が減ったよ。」「ずっとやったら節約にもなるね。」という声が多かったです。